

レバ萼中ニ小子四粒アリ、熟シテ苗枯ル、乃夏至ノ候ナリ、故ニ夏枯草ト名ク、苗枯ルレバ直ニ根ヨリ新苗ヲ生ズ、春ノ苗ヨリ長大ナリ、冬寒ニ逢テ枯ル、冬至ヨリ新苗ヲ發シ花ヲ含ミ、春ニ至テ開ク、古ヨリウツボグサヲ以テ夏枯草ニ充ツ、今藥肆ニ賣ル所ノ夏枯草皆ウツボグサナリ、然レドモウツボグサハ、滁州夏枯草ニシテ眞物ニ非ズ、稻先生ノ説ニモ、夏枯草ハウツボグサニ非ズ、用テ効ナシト、大和本草ニ載ス、ウツボグサハ一名スイク、バナ、江州スイク、同上スイバナ、佐州スモトリ、澧州ウシボクト、長崎ヒグラシ、豫州シビトバナ、和州シビトノマクラ、同上狐ノマクラ、同上ウバチコ、奥州ウバノチ、同上トリゲグサ、ヤリバナ、マツカサグサ、雲州山野甚多シ、四時葉アリ、形チ薄荷葉ニ似テ微尖リ鋸齒淺シ、冬ハ地ニ就テ叢生ス、春已後方莖ヲ抽デ、高サ二三寸葉兩對ス、五月ニ至テ六七寸、上ニ穗ヲ出シ、深紫色ノ花ヲ開クコト二寸許、輔靱ノ形ニ似タリ、又深紫色ニシテ青ヲ帶ルモノアリ、又淡紫色深紅色白色ノモノアリ、此草夏枯レズ、夏至以後始テ花アリ、夏枯草ノ名ニ稱ハズ、然レドモ効用ハ近シテ代用スル故ニ、滁州夏枯草ト云フ、

増、按ニ夏枯草夏至ノ候ニ枯レテ、舊草脱シテ直ニ新葉ヲ生ズ、ソノ直ニ新陳相代ルヲ以テ、十二一重ノ名アリ、

香葉

〔廣益地錦抄〕五空穗草ほき 田野に多生ズ、葉はそ長ク冬の中より出る、春五六寸に花を出ス、花形松かさのごとく、又空穗に似たるとして、うつぼさうといふ、花の色うす紫なり、此草夏は枯るゆへに夏枯草共云、本草に冬至の後葉を出す、三四月花をひらく、穗をなす、五月かるゝと有

〔武江産物志〕藥草道灌山ノ産 除州夏枯草つはくさ 堀ノ内大箕谷邊ノ産 夏枯草じゆくさ 山道カニモ

〔本草和名〕十八香薷楊玄操音 一名胡薷本名胡薷、石勒諱胡、一名苜蓿、注出、方 一名鼠趨出、拾遺 和名以奴衣、一名以奴阿良良岐、

〔倭名類聚抄〕十七香葉 楊氏漢語抄云香葉音柔、和名 一云、水蘇今按所出、未詳